

V 試験研究発表題名

令和2年度 試験研究発表題名一覧

番号. 著者名. タイトル. 誌名, 掲載号: ページ

1. 桃原郁夫. 合同ワークショップ「地域の木材流通の川上と川下をつなぐ取組から学ぶ」に参加して. 木材工業, 76 (6):262-267
2. 高尾哲也 (昭和女子大学大学院), 藤本清彦, 中山榮子 (昭和女子大学大学院), 佐々木央 (NPO 法人活木活木森ネットワーク), 永井寛 (NPO 法人活木活木森ネットワーク), 桃原郁夫. 木製まな板とプラスチック製まな板の微生物および表面損傷の評価. 日本家政学会誌, 71 (12):757-765
3. 石川敦子, 桃原郁夫. 木質材料の屋外および海洋環境での利用. 日本森林学会大会学術講演集, 132:S8-3
4. 久保島吉貴, 原田真樹, 加藤英雄, 桃原郁夫. 振動試験による木製ガードレール横梁の強度特性の推定. 日本森林学会大会学術講演集, 132:S8-5
5. 玉井幸治, 吉藤奈津子, 飯田真一, 勝島隆史, 荒木誠, 金子智紀 (秋田県林業研究研修センター), 野口正二. 秋田県大館市のスギ林における間伐による林床面蒸発量のモデルによる変動評価. 関東森林研究, 71 (1):141-144
6. 久保田多余子, 野口正二, 清水貴範, 細田育広, 村上茂樹, 壁谷直記, 清水晃, 阿部俊夫, 坪山良夫, 玉井幸治. 宝川森林理水試験地観測報告 - 本流・初沢試験流域 - (1991年1月~2000年12月). 森林総合研究所研究報告, 19 (2):159-184
7. 黒川潮, 岡田康彦, 野口正二. 森林の経年変化に伴う危険地区の予測 (その2). 砂防学会研究発表会概要集 (2020), 463-464
8. 久保田多余子, 野口正二, 清水貴範, 阿部俊夫, 清水晃, 壁谷直記, 延廣竜彦, 飯田真一, 玉井幸治, 村上茂樹, 澤野真治, 坪山良夫. 宝川森林理水試験地観測報告 - 本流・初沢試験流域 - (2001年1月~2010年12月). 森林総合研究所研究報告, 19 (4):373-400
9. 野口正二. 林地における土壌水分の測定. 砂防学会誌, 73 (3):78-82
10. 阿部俊夫, 野口正二. 開設年の異なる2つの作業道における間伐後3年間の濁水流出量の推移. 日本森林学会大会学術講演集, 132:208 (P-304)
11. 岩上翔, 野口正二, 清水貴範, 久保田多余子, 飯田真一. 山地斜面における土層中の封入空気の形成と林内雨の関係について. 日本森林学会大会学術講演集, 132:P-292
12. 野口正二. コロナ禍の今, 森林研究について思う. 森林総合研究所関西支所研究情報, 139:1
13. 坂下渉, 三浦覚, 今村直広, 大橋伸太, 小松雅史, 篠宮佳樹, 荒木眞岳, 梶本卓也, 小林政広, 齊藤哲, 金子真司. Differences in the radiocesium deposition between evergreen coniferous and deciduous broad-leaved forests. (常緑針葉樹林と落葉広葉樹林間の放射性セシウム沈着量の違いについて). JpGU-AGU Joint Meeting 2020, MAG44-03
14. 井上裕太 (森林総研 PD), 田中憲蔵, 矢崎健一, 小笠真由美, 荒木眞岳, 齊藤哲. スギ成木の枝木部における通水機能の脆弱性. 関東森林研究, 71 (2):225-228
15. 田中憲蔵, 井上裕太 (森林総研 PD), 荒木眞岳, 川崎達郎, 北岡哲, 齊藤哲. 3成長期間の土壌乾燥に対するスギ成木の応答 II. 光合成特性. 日本森林学会大会学術講演集, 132:P-120

16. 井上裕太 (森林総研 PD)、田中憲蔵、荒木眞岳、川崎達郎、北岡哲、釣田竜也、阪田匡司、齊藤哲. 3 成長期間の土壌乾燥に対するスギ成木の応答 I. 葉の水利用特性. 日本森林学会大会学術講演集、132:P-174
17. 佐藤保、山川博美、野宮治人、安部哲人、齊藤哲、釜稔 (九州森林管理局森林技術・支援センター)、大寺義宏 (九州森林管理局森林技術・支援センター). 照葉樹老齢二次林の 21 年間にわたる林分構造の変化. 森林総合研究所研究報告、20 (1):37-47
18. 安田幸生、齊藤哲、勝島隆史. 強風の風速と発生頻度に基づく風害リスク評価. 水利科学、376:32-44
19. 荒木眞岳、井上裕太 (森林総研 PD)、釣田竜也、阪田匡司、田中憲蔵、川崎達郎、齊藤哲. 3 年間にわたる土壌の乾燥がスギ成木の蒸散と成長に及ぼす影響. 日本森林学会大会学術講演集、132:E4
20. 田中憲蔵、齊藤哲. アカマツ、コナラ、スギの枝葉の放射性セシウム濃度と成長量の関係. 関東森林研究、72 (1):77-80
21. 齊藤哲. 人工林への影響と適応策. 森林学の百科事典 (日本森林学会編・丸善出版、704 頁)、598-601
22. 井上裕太 (森林総研 PD)、荒木眞岳、釣田竜也、阪田匡司、齊藤哲、田中憲蔵. 降雨遮断実験による土壌の乾燥がスギ成木のシュート伸長に及ぼす影響. 関東森林研究、72 (2):197-200
23. 岩本宏二郎、齊藤哲、鶴川信 (鹿児島大学・農)、勝木俊雄、福田健二 (東京大学・農). 北八ヶ岳縞枯れ林における卓越風の特徴と縞枯れの推移. 日本生態学会大会講演要旨集、68:W17-4
24. 近藤駿太郎 (横浜国大・環境情報)、飯田佳子、新山馨、齊藤哲、森章 (横浜国大・環境情報). 屋久島照葉樹林の樹種多様性が生産性を安定化させる効果の空間スケール依存性. 日本生態学会大会講演要旨集、68:P1-280
25. 細田育広. 基盤事業：森林水文モニタリングー竜ノ口山森林理水試験地ー. 森林総合研究所関西支所年報 (令和 2 年版)、61:39
26. 細田育広. ヒノキ人工林 30% 間伐後 3 年間の林内雨量の経過. 日本森林学会大会学術講演集、132:201 (P-276)
27. 久保田多余子、吉村真由美. 溪畔林内の渓流水中の日射量を推定する試み. 関東森林学会大会講演要旨集、10:29 (防災 63)
28. 今井健介 (京都教育大学)、吉村真由美、境優 (中央大学)、夏原由博 (名古屋大学). 防鹿柵で囲まれた集水域と囲まれなかった集水域の二次溪流における、柵設置 1 年後の水生昆虫群集. 日本環境動物昆虫学会誌、31 (3):101-109
29. 吉村真由美. [新刊紹介] 寄生バチと狩りバチの不思議な世界. 昆虫 (ニューシリーズ)、23 (3):112
30. 吉村真由美、赤間亮夫 (元森林総研職員). Difference of ecological half-life and transfer coefficient in aquatic invertebrates between high and low radiocesium contaminated streams. (高汚染地域と低汚染地域における溪流性底生動物の生態学的半減期と移行係数について). Scientific Reports、10:21819
31. 吉村真由美. 只見の森の恵み・溪流魚と釣り人. 只見とっておきの話 II (北日本印刷株式会社、295 頁)、90-92
32. 吉村真由美. <新記録ノート>奈良県にて生息が確認されたコイズミエグリトビケラ *Neophylax koizumii* (Iwata) (トビケラ目、クロツツトビケラ科). 昆虫 (ニューシリーズ)、24 (1):7-8
33. 吉村真由美、久保田多余子. 溪流に生育・生息する藻類やヨコエビからみた溪流内に入り込む光の状態について. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、65:89 (PG04)
34. 吉村真由美. 表紙説明. 陸水生物学報、35: 裏表紙

35. 山下直子. 攪乱と種の共存はバランス次第. 木本植物の生理生態 (小池孝良、北尾光俊、市栄智明、渡辺誠編) (共立出版、262頁)、第1章森林の保全生態、コラム 1.1、6-7
36. 山下直子. 地域の森林資源と文化を未来へ繋ぐ. 山林、1634:2-11
37. 山下直子. 木地師文化発祥の地 東近江市小椋谷. 森林科学、90:28-31
38. 山下直子、飛田博順、奥田史郎、小笠真由美、松田修 (九州大学大学院)、小川健一 (岡山県農林水産総合センター生物科学研究所). スギ母樹へのグルタチオン施用が種子の品質に与える影響. 日本森林学会大会学術講演集、132:P-087
39. 奥田史郎、上村章、飛田博順、松田修 (九大理院)、山下直子. 種子選別と GSSG 施用処理におけるスギ種子の発芽とプラグ苗の初期成長. 関東森林学会大会講演要旨集、10:22 (造林 42)
40. 奥田史郎、上村章、飛田博順、山下直子. スギの選別種子によるコンテナ苗育苗における GSSG 施用の有無と成長. 日本森林学会大会学術講演集、132:P-088
41. 山下直子. 木地師文化の形成と森林資源. 滋賀県の林業・森林文化、ページ未定
42. 山下直子. 中山間地における広葉樹資源の活用と地域再生 - 近畿中国地域を中心として -. 北の森だより、24:12-15
43. 山下直子. 先人に習い未来を創造する地域力 - 滋賀県東近江市における森林資源の利用 -. グリーンスピリッツ、16 (1):10-13
44. 大橋春香、長谷川知子 (立命館大)、平田晶子 (森林総研 PD)、藤森真一郎 (京都大)、高橋潔 (国環研)、津山幾太郎、中尾勝洋、小南裕志、田中信行 (東農大)、脇岡靖明 (国環研)、松井哲哉. 生物多様性の保全と温室効果ガス排出削減策の両立可能性を評価する. JATAFF ジャーナル、8 (7):30-34
45. 平田晶子 (森林総研 PD)、高野 (竹中) 宏平 (長野県環境保全研究所)、相原隆貴 (筑波大学大学院)、中尾勝洋、津山幾太郎、唐勤 (雲南大学)、松井哲哉、脇岡靖明 (国立環境研究所). 日本の竹林分布に対する気候変動影響評価: 拡大リスク増大下での適応にむけて. 環境情報科学学術研究論文集、34:210-215
46. 内山憲太郎、韓慶民、楠本倫久、中尾勝洋、上野真義、津村義彦 (筑波大学). 産地試験地を用いたスギの機能形質の遺伝解析. 日本生態学会大会講演要旨集、68:W12-1 (自由集会)
47. YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、Delphis F.Levia (テラウェア大学)、TAKENOUCHE Akiko (竹之内暁子・物質材料研)、WATANABE Makoto (渡辺誠・物質材料研)、KABEYA Daisuke (壁谷大介)、MIKI H.Naoko (三木直子・岡山大)、TANEDA Haruhiko (種子田春彦・東京大)、OGASA Mayumi (小笠真由美)、OGURO Michio (小黒芳生)、SAIKI Shin-Taro Saiki (才木真太郎)、TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、FUKUDA Kenji (福田健二・東京大). Imperforate tracheary elements and vessels alleviate xylem tension under severe dehydration: insights from water release curves for excised twigs of three tree species. (強い脱水時に木繊維と道管が通水系の張力を緩和する: 3 樹種の切り枝の脱水曲線からの洞察). American Journal of Botany、107:1122-1135、DOI:10.1002/ajb2.1518
48. 平松勅悦 (岡山大学)、三木直子 (岡山大学)、佐藤佳奈子 (岡山大学)、小笠真由美、矢崎健一. 中国半乾燥地域の匍匐性針葉樹 *Juniperus sabina* L. のポット苗木における乾燥後の水輸送機能の回復. 日本沙漠学会講演要旨集、31:45
49. 小笠真由美. 亜高山帯針葉樹シラビソの越冬術. 森林総合研究所関西支所研究情報、137:2-3
50. 小笠真由美、山下直子、飛田博順、奥田史郎、宇都木玄. 乾燥条件下におけるヒノキコンテナ苗の葉の水分状態および木部の水分通導に対する摘葉の効果. 日本森林学会誌、102 (3):207-211

51. 矢崎健一、小笠真由美、種子田春彦（東京大）. 樹木木部の通水機能の正しい評価方法. 日本森林学会大会学術講演集、132:S7-2
52. 齋藤隆実、小笠真由美、飛田博順、矢崎健一、壁谷大介、小黑芳生、宇都木玄. コンテナ苗の根鉢の形成程度を簡単に評価できる方法を開発しました. 森林総合研究所研究成果選集 2020（令和2年版）、20-21
53. 小笠真由美、藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）、飛田博順、山下直子、宇都木玄. コンテナ苗における育苗方法の現状～全国の生産者へのアンケート調査より～. 日本森林学会大会学術講演集、132:P-089
54. 種子田春彦（東京大）、小笠真由美、矢崎健一、丸田恵美子（神奈川大）. 縞枯れではどうやって風が針葉樹を衰退させるのか？. 日本生態学会大会講演要旨集、68:W17-1（自由集会）
55. KITAGAWA Ryo（北川涼）、MIMURA Makiko（三村真紀子・岡山大学）、MORI S Akira（森章・横浜国立大学）、SAKAI Akiko（酒井暁子・横浜国立大学）. Phylogenetic signal in the topographic niche of trees: Current and historical significance of habitat structure on the species arrangement pattern within East Asian rugged forests.（樹木の地形上のニッチ分化の系統的な背景）. *Ecological Research*、35（4）:613-624
56. 北川涼. 森林の分布と構造・動態、地形と森林構造. 森林学の百科事典（日本森林学会編・丸善出版、704頁）、44
57. 金子真司、岡本透. 瀬戸内気候の森林溪流水質への影響. 日本土壌肥料学会大会講演要旨集、66:4（1-1-11）
58. 平井敬三、相澤州平、川西あゆみ（森林総研非常勤職員）、池田重人、石塚成宏、稲垣昌宏、稲富素子（農研機構）、大貫靖浩、岡本透、小林政広、酒井寿夫、酒井佳美、阪田匡司、志知幸治、篠宮佳樹、田中永晴、釣田竜也、鳥山淳平、野口享太郎、橋本昌司、橋本徹、古澤仁美、三浦覚、山下尚之、山田毅. 日本の森林土壌の炭素蓄積量の全国評価. 日本土壌肥料学会大会講演要旨集、66:76（5-1-11）
59. 岡本透. 秋吉台の土壌生成－風成堆積物の影響－. *ペドロジスト*、64:37-42
60. 安井瞭（土浦日本大学高校）、岡本透. オンライン資料を活用した取り組み～沖縄の絵図をオンラインで読み解く. 日本環境教育学会年次大会研究発表要旨集、31:115
61. 志知幸治、池田重人、岡本透. 新潟県中越地域における過去4万年間の植生変遷. 日本花粉学会大会講演要旨集、62:34
62. 安井瞭（東京大学）、岡本透、寺嶋芳江（静岡大学）、奈良一秀（東京大学）. 国絵図と古文書史料から読み解く江戸年間の宮古列島における松樹導入の歴史. *九州森林研究*、73:11-16
63. 梅村光俊、岡本透、鳥居厚志. モウソウチクの葉から抽出した植物ケイ酸体の粒度分布分析手法の検討. 日本森林学会大会学術講演集、132:P-259
64. 飛田博順、柴田銃江、中静透、齋藤智之、壁谷大介（林野庁）、星野大介、八木橋勉、中下留美子、今矢明宏（国際農研）、小野賢二、岡本透、森貞和仁、平井敬三、小林政広、眞中卓也. 御嶽山の岩屑流跡地に更新したハンノキ属樹種の窒素固定能の攪乱から35年目の評価. 日本生態学会大会講演要旨集、68:P2-168
65. 石塚成宏、大曾根陽子、酒井寿夫、酒井佳美、岡本透、溝口岳男、田中永晴、金子真司. 乾式燃焼法を用いた土壌と堆積有機物の炭素・窒素量分析の注意点－スミグラフ NC-22F を用いて－. *森林立地*、62（2）:101-106
66. ITOH Yuko（伊藤優子）、KOBAYASHI Masahiro（小林政広）、OKAMOTO Toru（岡本透）、IMAYA Akihiro（今矢明宏・JIRCAS）. Bulk precipitation and throughfall depositions of atmospheric nitrogen and sulfur in forests surrounding the Tokyo metropolitan area.（首都圏周辺の森林域における林外雨と林内雨に伴う大気由来窒素、硫黄の流入）. *JpGU-AGU Joint Meeting 2020*、AHW32-P13

67. 岡本透. 歴史資料に基づく江戸時代以降の植生変化と土壌特性との関係を考える. 日本森林学会大会学術講演集、132:74 (S6-2)
68. 西村濤 (名古屋大)、谷川東子 (名古屋大)、土居龍成 (名古屋大)、吉田巖 (名古屋大)、杵山哲矢 (名古屋大)、岡本透、平野恭弘 (名古屋大). スギ・ヒノキ林における表層土壌酸性化の30年間の進行・抑制. 日本森林学会大会学術講演集、132:121 (I6)
69. 多田泰之. 山地の崩れやすい危険地形の基礎知識その一、断層の地盤特性. 森林総合研究所関西支所研究情報、136:4
70. 多田泰之. 山地の崩れやすい危険地形の基礎知識その二、河川沿いでみられる断層地形. 森林総合研究所関西支所研究情報、137:4
71. 多田泰之. 飛行機から山の崩れやすさを診る. 森林総合研究所関西支所公開講演会要旨集、:3
72. 多田泰之. 山地の崩れやすい危険地形の基礎知識その三、山地で見られる断層地形 鞍部. 森林総合研究所関西支所研究情報、138:4
73. 多田泰之. 災害リスクへの対応. 森林計画学入門 (田中和博、吉田茂二郎、白石則彦、村松直人編) (朝倉書店、196頁)、155-157
74. 多田泰之. 表層崩壊の発生を予測する. 砂防の観測の現場を訪ねて1～土砂災害を知るための観測～ (砂防学会、出版プロジェクト委員会 (編)) (砂防学会、134頁)、107-115
75. 酒井佳美、多田泰之、臼田寿生 (岐阜県森林研究所)、和多田友宏 (岐阜県森林研究所)、野口享太郎、小林政広. 腐朽4年のヒノキ根の腐朽の進行と強度低下. 九州森林研究、74:51-53
76. 酒井佳美、多田泰之、臼田寿生 (岐阜県森林研究所)、和多田友宏 (岐阜県森林研究所)、野口享太郎、小林政広. 伐採後4年のヒノキ根の腐朽の進行と強度低下. 九州森林学会大会研究発表プログラム、76: 講演番号1001
77. 多田泰之. 林業と国土保全の両立を目指して (1) - 林業技術者のための林地の災害リスクの考え方 -. 山林、1640:37-45
78. 多田泰之. 林業と国土保全の両立を目指して (2) 完 - 林地の災害リスクの基礎知識 -. 山林、1641:34-43
79. 多田泰之. 山地の崩れやすい危険地形の基礎知識その4、立木の曲がりと崩壊危険度. 森林総合研究所関西支所研究情報、139:4
80. 多田泰之. 森林の国土保全機能と自然災害. 環境情報科学、50 (1):30-34
81. Gilberto Pastorello (Lawrence Berkeley National Laboratory)、TAKANASHI Satoru (高梨聡、287人中251番目). The FLUXNET2015 dataset and the ONEFlux processing pipeline for eddy covariance data (FLUXNET2015 データセットおよび渦相関データのための ONEFlux パイプライン処理). Scientific Data、7:225、doi:10.1038/s41597-020-0534-3

82. UHEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪府立大学)、ICHI Kazuhito (市井和仁・千葉大学)、KOBAYASHI Hideki (小林秀樹・海洋研究開発機構)、KUMAGAI Tomo'omi (熊谷朝臣・東京大学)、BERINGER Jason (Univ. of Western Australia)、MERBOLD Lutz (ILRI)、EUSKIRCHEN Eugenie (Univ. of Alaska Fairbanks)、HIRANO Takashi (平野高司・北海道大学)、BELELLI Marchesini Luca (Research and Innovation Centre, Italy)、BALDOCCHI Dennis (Univ. of California)、SAITO M Taku (斎藤琢・岐阜大学)、MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)、ONO Keisuke (小野圭介・農研機構)、KIM Joon (Seoul National Univ.)、VARLAGIN Andrej (Severtsov Institute of Ecology and Evolution)、KANG Minseok (National Center for AgroMeteorology, Korea)、SHIMIZU Takanori (清水貴範)、KOSUGHI Yoshiko (小杉緑子・京都大学)、BRET-HARATE Marion (Univ. of Alaska Fairbanks)、MACHIMURA Takashi (町村尚・大阪大学)、MATSUURA Yojiro (松浦陽次郎)、OHTA Takeshi (太田岳史・名古屋大学)、TAKAGI Kentaro (高木健太郎・北海道大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、YASUDA Yukio (安田幸生)。Inferring CO₂ fertilization effect based on global monitoring land-atmosphere exchange with a theoretical model (理論的モデルを用いた陸域-大気交換量全球モニタリングに基づくCO₂施肥効果の推定)。Environmental Research Letters, 15 (8):084009
83. MIYAMA Takafumi (深山貴文)、MORISHITA Tomonori (森下智陽)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、NOGUCHI Hironori (野口宏典)、YASUDA Yukio (安田幸生)、YOSHIFUJI Natsuko (吉藤奈津子)、OKANO Michiaki (岡野通明)、YAMANOI Katsumi (山野井克己)、MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、KITAMURA Kenzo (北村兼三)、MATSUMOTO Kazuho (松本一穂・琉球大学)。Increases in Biogenic Volatile Organic Compound Concentrations Observed After Rains at Six Forest Sites in Non-Summer Periods. (夏以外の時期に6森林サイトにおいて降雨後に観測された生物起源揮発性有機化合物濃度の上昇)。Atmosphere, 11 (12):1381、<https://doi.org/10.3390/atmos11121381>
84. 深山貴文、山野井克己、溝口康子、安田幸生、森下智陽、野口宏典、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子、高梨聡、北村兼三、松本一穂 (琉球大学)。低温期における森林の揮発性有機化合物濃度の上昇要因。日本森林学会大会学術講演集、132:P-284
85. 深山貴文、山野井克己、溝口康子、森下智陽、野口宏典、安田幸生、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子、高梨聡、北村兼三、松本一穂 (琉球大学)。森林内の揮発性有機化合物濃度の季節変動特性と気象要因の関係性。日本農業気象学会全国大会講演要旨集 (2021)、FP01
86. 高梨聡。樹木内部の炭素輸送。森林総合研究所関西支所研究情報、138:1-2
87. 高梨聡、安宅未央子 (京都大学)、檀浦正子 (京都大学)、Schaefer, Holger (京都大学)。コナラの炭素輸送と成長特性。日本森林学会大会学術講演集、132:P-190
88. Wang, Shitephen (京都大学)、KOBAYASHI Keito (小林慧人・京都大学)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、KITAYAMA Kanehiro (北山兼弘・京都大学)、ONODA Yusuke (小野田雄介・京都大学)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)。Seasonal dynamics of carbon allocation between different organs in *Phyllostachys edulis* (Moso bamboo) forests. (モウソウチクにおける組織への炭素配分の季節変動)。日本森林学会大会学術講演集、132:P-238
89. 岡野通明、小南裕志、深山貴文、吉藤奈津子、高梨聡、中井裕一郎、中野隆志 (富士山科学研究所)。富士吉田森林気象試験地において検出された最近の気候変動トレンド。関東森林学会大会講演要旨集、10:11 (防災71)

90. KOGA Nobuhisa (古賀伸久・農研機構)、SHIMODA Seiji (下田星児・農研機構)、SHIRATO Yasuhito (白戸康人・農研機構)、KUSABA Takashi (草場敬・農研機構)、SHIMA Takeo (島武男・農研機構)、NIIMI Hiroshi (新美洋・農研機構)、YAMANE Tsuyoshi (山根剛・農研機構)、WAKABAYASHI Katsufumi (若林勝史・農研機構)、NIWA Katsuhisa (丹羽勝久・ズコーシャ)、KOHYAMA Kazunori (神山和則・農研機構)、OBARA Hiroshi (小原洋・農研機構)、TAKATA Yusuke (高田裕介・農研機構)、KANDA Takashi (神田隆・農研機構)、INOUE Haruna (井上美那・農研機構)、ISHIZUKA Shigehiro (石塚成宏)、KANEKO Shinji (金子真司)、TSURUTA Kenji (鶴田健二)、HASHIMOTO Shoji (橋本昌司)、SHINOMIYA Yoshiki (篠宮佳樹)、AIZAWA Shuhei (相澤州平)、ITO Eriko (伊藤江利子)、HASHIMOTO Toru (橋本徹)、MORISHITA Tomoaki (森下智陽)、NOGUCHI Kyotaro (野口享太郎)、ONO Kenji (小野賢二)、KATAYANAGI Nobuko (片柳薫子)、ATSUMI Kazuyuki (渥美和幸・早稲田大). Assessing changes in soil carbon stocks after land use conversion from forestland to agricultural land in Japan. (日本の森林から農地への土地利用変化による土壤炭素蓄積量の変化について). *Geoderma*, 377:114487
91. 橋本昌司、今村直広、川西あゆみ (森林総研非常勤職員)、小松雅史、大橋伸太、仁科一哉 (国立環境研究所)、金子真司、George Shaw (ノッティンガム大学)、Yves Thiry (ANDRA). A dataset of 137Cs activity concentration and inventory in forests contaminated by the Fukushima accident. (福島事故により汚染された森林における 137Cs の濃度とインベントリーのデータセット). *Scientific Data*, 7:431
92. SAKASHITA Wataru (坂下渉)、MIURA Satoru (三浦覚)、AKAMA Akio (赤間亮夫・元森林総研職員)、OHASHI Shinta (大橋伸太)、IKEDA Shigeto (池田重人)、SAITOH Tomoyuki (齋藤智之)、KOMATSU Masabumi (小松雅史)、SHINOMIYA Yoshiki (篠宮佳樹)、KANEKO Shinji (金子真司). Assessment of vertical radiocesium transfer in soil via roots. (根を介した土壤中の放射性セシウムの鉛直移動の評価). *Journal of Environmental Radioactivity*, 222:106369, <https://doi.org/10.1016/j.jenvrad.2020.106369>
93. IMAMURA Naohiro (今村直広)、MATSUURA Toshiya (松浦俊也)、AKAMA Akio (赤間亮夫・元森林総研職員)、IKEDA Shigeto (池田重人)、KOBAYASHI Masahiro (小林政広)、MIURA Satoru (三浦覚)、SHINOMIYA Yoshiki (篠宮佳樹)、KANEKO Shinji (金子真司). Temporal changes in the spatial patterns of air dose rate from 2012 to 2016 at forest floors in Fukushima, Japan. (福島県の森林林床における 2012 年から 2016 年までの空間線量率の空間分布の時系列変化). *Journal of Environmental Radioactivity*, 222:106377
94. 橋本昌司、今村直広、金子真司、小松雅史、松浦俊也、仁科一哉 (国立環境研究所)、大橋伸太. 森林内の放射性セシウムの動きを予測する. 森林総合研究所研究成果選集 2020 (令和 2 年版)、9-10
95. 橋本昌司、今村直広、川西あゆみ (森林総研非常勤職員)、小松雅史、大橋伸太、仁科一哉 (国立環境研究所)、金子真司、George Shaw (ノッティンガム大学)、Yves Thiry (ANDRA). Cs-137 in forests ecosystems contaminated by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. (福島事故により汚染された森林生態系のセシウム 137). *Zenodo*, doi: 10.5281/zenodo.4268843
96. 篠宮佳樹、三浦覚、金子真司、大橋伸太、荒木眞岳、今村直広、坂下渉、阪田匡司. スギ林における放射性セシウムの分布に及ぼす地形の影響. 日本森林学会大会学術講演集、132:P-247
97. 橋本昌司、今村直広、川西あゆみ (森林総研非常勤職員)、小松雅史、大橋伸太、仁科一哉 (国立環境研究所)、金子真司、George Shaw (ノッティンガム大学)、Yves Thiry (ANDRA). セシウム 137 の濃度およびインベントリーデータベース構築. 日本森林学会大会学術講演集、132:P-252
98. 鳥居厚志. 竹材・筍. 森林学の百科事典 (日本森林学会編・丸善出版、704 頁)、382-383
99. 赤間亮夫 (元森林総研職員)、溝口岳男、長倉淳子. アカマツの窒素利用特性と生育適地の関係 - 林木の栄養生理における一考察 -. 森林総合研究所研究報告、19 (3):221-244
100. 市原優、升屋勇人. 温湯処理によるブナ、コナラおよびイヌブナ堅果の腐敗抑制効果. 森林防疫、69 (3):19-25

101. 升屋勇人、市原優、相川拓也. ヒノキ・ヒバにおける漏脂病の原因菌 *Cistella japonica* の系統解析. 樹木医学会大会研究発表要旨集、25:P-05
102. 関伸一. 屋久島のコマドリ (1): 南限の繁殖地. 洋上アルプス、301:3
103. 関伸一. 屋久島のコマドリ (2): 屋久島だからって特別だと思うなよ. 洋上アルプス、302:3
104. 関伸一. 屋久島のコマドリ (3): 赤髭のコマドリと黒髭のアカヒゲ. 洋上アルプス、303:3
105. 関伸一. 島にいてもコマドリはコマドリ. BIRDER、34 (5):30-32
106. 関伸一. 特定外来生物クリハラリスのかわいい見かけと放ってはおけない裏の顔. 森林総合研究所関西支所研究情報、139:2-3
107. 神崎菜摘、Liang, W.-R. (中興大学)、Chiu, C.-I (中興大学)、Li, H.-F. (中興大学). *Acrostichus ziaelasi* n. sp. (Nematoda: Diplogastridae) isolated from the beetle *Ziaelas formosanus*, a tenebrionid symbiont of the termite *Odontotermes formosanus* with remarks on the genus *Acrostichus* Rahm, 1928. (キノコシロアリ同居昆虫、*Ziaelas formosanus* から分離された *Acrostichus ziaelasi* の新種記載と *Acrostichus* 属の分類に関して). Zoologischer Anzeiger、286:20-30、DOI: 10.1016/j.jcz.2020.03.002
108. 浴野泰甫 (明治大・農)、桐野巴瑠 (明治大・農)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大・農). Ultrastructural plasticity in the plant-parasitic nematode, *Bursaphelenchus xylophilus*. (植物寄生性線虫、マツノザイセンチュウの微細構造レベルの可塑性). Scientific Reports、10:11576、DOI: 10.1038/s41598-020-68503-3
109. 神崎菜摘. スズメバチに寄生する線虫, スズメバチタマセンチュウ: その生活史と応用の可能性. 森林防疫、69 (5):3-10
110. 神崎菜摘、濱口京子. *Lenisaphelenchus ulomae* n. gen., n. sp. (Rhabditida: Aphelenchoididae) isolated from the body cavity of *Uloma marseuli* Nakane (Coleoptera: Tenebrionidae) from Japan. (エグリゴミムシダマシ血体腔より検出された線虫の新属新種、*Lenisaphelenchus ulomae*). Nematology、22:961-974、DOI: 10.1163/15685411-bja10004
111. 井手竜也 (国立科学博物館)、小山明日香、神崎菜摘. バラ類に虫こぶをつくるタマバチとその同居蜂、寄生蜂の多様性. 日本生態学会大会講演要旨集、68:P2-179
112. 神崎菜摘、小澤みなみ (日大・生物資源)、太田祐子 (日大・生物資源)、出川洋介 (筑波大・山岳科学センター). Four *Pristionchus* species associated with two mass-occurring *Parafontaria laminata* populations. (キシヤステ大発生個体群から分離された *Pristionchus* 属線虫の多様性). Journal of Nematology、52:e2020-115、DOI: 10.21307/jofnem-2020-115
113. TAŞDEMİR Sinan (Izmir Katip Celebi University)、AKBULUT Süleyman (Izmir Katip Celebi University)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、ÖZTÜRK Nuray (Izmir Katip Celebi University). Preliminary survey of nematodes associated with broadleaved trees in İzmit Forest Management Directorate, TURKEY. (İzmit 森林管理区における広葉樹材内生息線虫の予備的調査). Forest Pathology、50:e12642、DOI:10.1111/efp.12642
114. MAEHARA Noritoshi (前原紀敏)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、AIKAWA Takuya (相川拓也)、NAKAMURA Katsunori (中村克典). Potential vector switching in the evolution of *Bursaphelenchus xylophilus* group nematodes (Nematoda: Aphelenchoididae). (マツノザイセンチュウ近縁種群の進化過程において媒介者の乗り換えが起こった可能性). Ecology and Evolution、10 (24):14320-14329

115. 神崎菜摘、浴野泰甫 (明治大・農)、濱口京子、竹内祐子 (京大・地球環境学堂). Three *Seinura* species from Japan with a description of *S. shigaensis* n. sp. (Tylenchomorpha: Aphelenchoididae). (日本国内からの3種の *Seinura* 属線虫の検出と、新種 *S. shigaensis* の記載). PLoS ONE, 16 (1):e0244653, DOI: 10.1371/journal.pone.0244653
116. Xin Tong (北大農)、神崎菜摘、秋元信一 (北大農). First record of Mermithid nematodes parasitizing sexuparae in gall-forming aphids (Aphididae: Eriosomatinae). (世界初!北海道余市で、ワタムシ科アブラムシから出現した糸片虫科線虫). 北海道応用動物・昆虫研究発表会 (令和2年度)、:3 (発表番号2)
117. Rafael GONZALEZ (フロリダ大学)、神崎菜摘、Cathy BECK (フロリダ大学)、William KERN (フロリダ大学)、Robin GIBLIN-DAVIS (フロリダ大学). Nematode epibionts on skin of the Florida manatee, *Trichechus manatus latirostris*. (フロリダマナティー体表面の表在性線虫相). Scientific Reports, 11:1211
118. 八代田千鶴. 似て非なる動物—シカとカモシカ—. 農業日誌 (令和3年)、302-303
119. 八代田千鶴. ニホンジカの個体数を推定する. 林業と薬剤、233:1-8
120. 八代田千鶴. 山林でシカを捕る. 山林、1638:58-66
121. 八代田千鶴、山口浩和、陣川雅樹. 森林内で捕獲したシカ個体運搬器材の開発. 日本森林学会大会学術講演集、132:L3
122. 柳澤賢一 (長野県林業総合センター)、八代田千鶴. ニホンジカの効率的捕獲とその効果検証. 日本森林学会大会学術講演集、132:P-360
123. SUNAMURA Eiriki (砂村栄力)、TAMURA Shigeaki (田村繁明・森林総研PD)、URANO Tadahisa (浦野忠久)、SHODA-KAGAYA Etsuko (加賀谷悦子). Predation of invasive red-necked longhorn beetle *Aromia bungii* (Coleoptera: Cerambycidae) eggs and hatchlings by native ants in Japan (日本在来アリ類による侵略的外来種クビアカツヤカミキリの卵および孵化幼虫の捕食). Applied Entomology and Zoology, 55 (3):291-298
124. 浦野忠久. クビアカツヤカミキリ人工飼料飼育における蛹化および羽化方法の改良. 関東森林学会大会講演要旨集、10: 動物 83
125. 砂村栄力、田村繁明 (森林総研PD)、浦野忠久、加賀谷悦子. 日本在来アリ類による外来のクビアカツヤカミキリ卵および孵化幼虫の捕食. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、65:8 (A111)
126. 浦野忠久. クビアカツヤカミキリ人工飼料飼育における蛹化および羽化方法の改良. 関東森林研究、72 (1):129-132
127. 浦野忠久. クビアカツヤカミキリ孵化幼虫飼育法の改良. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、65:54 (E303)
128. 高梨琢磨、衣浦晴生、上地奈美 (農研機構果樹茶業研究部門)、西野浩史 (北海道大)、浦野忠久、加賀谷悦子、田村繁明、蔭山健介 (埼玉大). 振動によるクビアカツヤカミキリの行動制御機構—成虫・幼虫の室内試験. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、65:7 (A106)
129. 安部哲人、工藤孝美 (沖縄県在住)、齋藤和彦、高嶋敦史 (琉球大学). やんばるの森の植物種多様性は樹種形質と関係があるか?. 九州森林学会大会研究発表プログラム、76: 講演番号 421

130. ABE Tetsuto (安部哲人)、KUDO Takami (工藤孝美・沖縄県在住)、SAITO Kazuhiko (齋藤和彦)、TAKASHIMA Atsushi (高嶋敦史・琉球大学)、MIYAMOTO Asako (宮本麻子). Plant indicator species for the conservation of priority forest in an insular forestry area, Yambaru, Okinawa Island. (沖縄県やんばるで優先的に保全すべき森を指標する植物種). *Journal of Forest Research*, 26 (3):181-191, DOI: 10.1080/13416979.2020.1858535
131. 平野悠一郎. 中国の自然環境・地理的条件. よくわかる現代中国政治 (ミネルヴァ書房)、:6-7
132. 平野悠一郎. 森林でのスポーツ活動. 森林学の百科事典 (日本森林学会編・丸善出版、704頁)、526-527
133. 平野悠一郎. 冒険型パークによる森林利用の新展開: フォレストアドベンチャーを事例として. *日本森林学会誌*, 102 (6):358-367
134. 平野悠一郎. 日本におけるキャンプ場の森林利用の動向. *日本森林学会大会学術講演集*, 132:B9
135. 柴崎茂光 (国立歴史民俗博物館)、平野悠一郎、竹本太郎 (東京農工大学)、八巻一成. 林業の歴史・文化的価値を高めるための政策のあり方-台湾における林業遺産の保全・活用事例に学ぶ-. *林業経済学会秋季大会学術講演集 (2020)*, 48-49
136. 平野悠一郎. 森林スポーツの現状と課題: トレイルランニングとマウンテンバイクを中心に. *木材情報*, 348:9-12
137. 平野悠一郎. 森林はスポーツの場となりうるか?. *季刊森林総研*, 51:18
138. 平野悠一郎. 新たな森林空間利用を考える. *森林技術*, 945:2-7
139. 平野悠一郎. 森林利用の新たな展開: 森林をめぐる価値の多様化に向き合うには. *山林*, 1635:2-11
140. 田中邦宏、齋藤和彦、田中真哉、近口貞介、楢山真司. 単木の樹冠長と胸高直径成長の関係およびその推移について. *日本森林学会大会学術講演集*, 132:D7
141. 田中邦宏. 直径分布の表現方法. *森林総合研究所関西支所研究情報*, 138:3
142. 田中邦宏、齋藤和彦、近口貞介、楢山真司. 高取山スギ人工林収穫試験地 (奈良県吉野郡) 定期調査報告-比較的温暖多雨な地域における高齢級スギ人工林の成長量について-. *森林総合研究所関西支所年報 (令和2年版)*, 61:41-42
143. 田中邦宏、齋藤和彦、近口貞介、楢山真司. 高取山ヒノキ人工林収穫試験地 (奈良県吉野郡) 定期調査報告-比較的温暖多雨な地域における高齢級ヒノキ人工林の成長量について-. *森林総合研究所関西支所年報 (令和2年版)*, 61:43-44
144. 西園朋広、細田和男 (林野庁)、北原文章、小谷英司、高橋興明、近藤洋史、古家直行、志水克人、福本桂子、山田祐亮、田中真哉、高橋正義、齋藤英樹. 地上型レーザースカナによる樹木サイズの測定誤差: 多数の計測事例の分析. *日本森林学会大会学術講演集*, 132:D21
145. 齋藤英樹、西園朋広、高橋正義、山田祐亮、鄭峻介、田中真哉. 地上レーザーと UAV データを用いた林冠高の推定. *日本森林学会大会学術講演集*, 132:P-067
146. 高橋興明、近藤洋史、田中真哉、山川博美、細田和男、西園朋広、齋藤英樹、山田祐亮、福本桂子. VUX-1 UAV 搭載のドローンレーザー計測システムによるヒノキ人工林の地盤面計測能力の評価. *九州森林学会大会研究発表プログラム*, 76: 講演番号 303

147. 加治佐剛（鹿児島大学）、田中真哉. 衛星リモートセンシングによる広域の森林資源把握. 森林学の百科事典（日本森林学会編・丸善出版、704頁）、282-283
148. 家原敏郎、光田靖（宮崎大学）. 持続的森林管理に向けた世界的潮流. 森林学の百科事典（日本森林学会編・丸善出版、704頁）、268-271

